

公正なあつ旋望む

委員構成、知事に一任

望 新 日 岡 吉
熊 来 長 社

水俣病問題の紛争あつ旋を寺本知事に依頼した吉岡新日望社長は、十九日午後来熊、同知事や岩尾県会議長、上原県警本部長らにあいさつしたあと県庁で記者団と会見。会社の立場はあつ旋の過程で明らかにしたい。公正なあつ旋案が出ることを期待している」とつぎのように語った。

さる二日に水俣市で起きた事件（漁民が工場に押しかけたこと）で県民のみなさんにご迷惑をかけたことを申しわけなく思う。本来ならば衆議院水俣病調査団の報告にもとづく関係各省の施策がとられ、また工場廃液と水俣病との結びつきがはっきりしてからあつ旋を依頼すべき

だったかもしれぬが、漁民のみなさんが平靜にかえり、二日の不祥事件が二度と起きないために、いまの段階であつ旋をたのんだ。この点を知事も十分考えて下さるようお願いしたい。通産省や経済企画庁あたりの意見もあり、この問題を水質保全法にもとづく仲介制度で解決したいと

考えていたが、問題が大きく、また同制度も運用面で多少検討すべき点があるので、委員会の構成は知事にお任せした。

あつ旋の内容は漁業問題だけにして、病気のことは切り離してほしいと思うが、会社側の具体的希望は委員会の席上でのべたい。だが、これまで会社側の理屈だけをのべて不祥事件を起こしたのだから、これからは理屈一本やりでは進まぬ。政治的な、しかも公正な委員会の諮問による公正な知事の判断で問題が解決することを願っている。